

信長の城と戦国近江

永禄 11 年(1568)、織田信長は足利義昭を擁して上洛します。この時、信長は軍勢を率いて近江を通過し、守護六角氏は戦わずして居城観音寺城を退きます。その後、近江の諸勢力と信長が戦った元亀争乱を経て信長は近江を掌握し、安土城をはじめとした新たな拠点城郭を近江の要所に築きました。六角氏が支配した中世近江は、信長によって近世近江へとその第一歩を踏み出したのです。

本講座では、織田信長の近江進攻以後、信長勢によって近江に築かれた様々な城を取り上げ、それらの特徴や歴史の中で果たした役割などを紹介します。そしてこの講座を通して、中世から近世へと大きく展開していく近江の戦国史を描き出すことを目指します。

○日程・テーマ

1. 5月18日 明智光秀と坂本城

坂本は比叡山延暦寺の門前町として、また湖南の水陸両方の流通拠点として繁栄した中世都市です。しかし元亀2年(1571)、信長による延暦寺焼き討ちの後、明智光秀が坂本城を築き、信長支配下の都市として再編されます。中世から近世にかけての坂本の様相と、今は失われてしまった坂本城の実像について考えます。

講師：松下 浩（滋賀県教育委員会文化財保護課主幹）

2. 6月15日 元亀争乱と城～湖南の城

蒲生郡から野洲・栗太郡にかけての地域は、近江守護六角氏の勢力圏でしたが、織田信長が永禄 11 年(1568)に上洛して後は、京都と岐阜を結ぶ連絡路として重視し、配架の武将を要所に配しました。湖南地域は、信長が近江諸勢力と戦った元亀争乱の舞台ともなり、要所に築かれた城も戦場となりました。元亀争乱の中での湖南地域の様相と、そこに築かれた城について考えます。

講師：仲川 靖（滋賀県教育委員会文化財保護課主幹）

3. 7月20日 石の要塞 安土城

織田信長が天下布武の拠点として築いた安土城は、史上初めての総石垣づくりの城でした。近世においてスタンダードとなる石造りの城は、安土城が始まりです。しかし、近年の調査で中世の山城からも石垣が多く発見され、石垣の存在が時代を画する指標とはいえないことが明らかになりつつあります。城郭石垣の研究をめぐる最新の状況を紹介します。あらためて安土城の石垣について考えます。

講師：北原 治（滋賀県教育委員会文化財保護課主幹）

4. 8月10日 織田信澄と大溝城

天正6年(1578)、信長の甥織田信澄は湖西高島郡の大溝に城を築きました。琵琶湖岸の要所に城を築き、琵琶湖を面的に支配する琵琶湖城郭ネットワークの完成です。琵琶湖は人や物を運ぶ重要な幹線で、近江を支配する武将にとって琵琶湖をいかに掌握するかは大きな課題でした。信長が湖岸に築いた城と琵琶湖支配について考えます。

講師：仲川 靖（滋賀県教育委員会文化財保護課主幹）

5. 9月21日 元亀争乱と城～湖北の城

元亀元年(1570)に始まる元亀争乱は、信長と近江諸勢力との戦いですが、その中心となったのは江北の戦国武将浅井長政との戦いでした。信長は、浅井氏の居城小谷城を攻略するための城を湖北地方に多く築きました。湖北の城の様相と、信長と浅井氏との戦いについて考えます。

講師：松下 浩（滋賀県教育委員会文化財保護課主幹）